

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第178号 令和5年 8月 17日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

・ 江別市教職員夏期セミナー実施報告

江別市教職員夏期セミナー実施報告

教職員のスキルアップを目的とした今年度の江別市教職員夏期セミナーは、7月25日（火）、27日（木）、28日（金）の3日間にわたり、「今日的な教育課題への対応」や、「いじめ・不登校対策」。「ICT 機器の有効活用」等、6つの講座が実施されました。今年度も、各校から各講座に積極的に参加していただくなど、予定通り実施させて頂くことができました。この場をお借りし、皆様からのご協力に対しまして、感謝申し上げます。

講座①の「今日的な教育課題」では、北海道立教育研究所の研究主幹 西島 進一 氏より、講座では令和の日本型教育の在り方としてこれから外すことのできない「個別最適な学び」、「協働的な学び」についてや、子どもの主体的な学びを支援する伴走者として、教育環境の変化に敏感でなければならないこと、求められるニーズに応えられるように自己研鑽を図っていくことの大切さについて、分かり易くお話していただき、参加者からは「ジグソーパズル型とレゴ型の説明は、伝える際に心に残りやすいフレーズで良かった。」「多方面から教育課題についてお話しいただき、自分なりに整理することができました。」などの感想が聞かれ、大変有意義な研修となりました。



夏期セミナー第一講座の様子



夏期セミナー第二講座グループ討議の様子

講座②の「特別支援教育」では、道立特別支援教育センター主任 研究員 深町 友祐 氏より、基本に立ち返った特別支援教育の定義についての説明や、子ども達の立場に立った障がい別の支援方法について演習を交えながら具体について説明して頂く等、ご教授していただくことができました。

参加者からは「日常の実践において生徒に還元できるお話や、分かりやすい演習もあり参考になりました。」「わかったつもりになっていた部分について、改めて自分の知識を整理することができました。」などの感想が聞かれ、実践に反映できる大変有意義な研修となりました。

講座④の「幼保こ小連携教育」では、石狩教育局の指導主事 熊崎 高士 氏より、幼保こ小連携教育の充実に向け、「架け橋プログラム」として、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿の具体を示していただく中で、幼保こ小連携しながら育てていく資質能力を明確に示していただきました。また、具体として、どんな実践が、子ども達にどんな能力を身に付けさせるのか、その見取りについて詳しく紹介して頂く研修となりました。

参加者からは「子ども達が安心して学校生活や学習に取り組んでいけるように幼保こ小の連携は重要だと思いました」、「江別市も幼保こ小の連携推進は課題となります。小



夏期セミナー第三講座グループ討議の様子

中連携よりも場合によってはハードルが高いと思われますが、勉強させていただきありがとうございました。」などの感想が聞かれ、これからの実践に反映できる有意義な研修となりました。



夏期セミナー第四講座の様子

講座④の「GIGAスクール構想の推進」では、富士電機ＩＴソリューション株式会社のスクールアシスタント 中西 愛美 氏より、「現場で活用することを目的に、演習を中心とした講座を開設していただきましたが、学習記録の蓄積につながるノート作成や、これからの学習方法の基本となる「個別最適な学び」から「協働的な学び」へつなげていくために必要な情報共有の進め方などについて、学ばせていただくことができました。

参加者からは、「skyメニューの存在は知っていたが、その中身を今回知ることができて良かった。実際に使う場面での紹介があって、とても分かりやすかった。」、「考えをまとめたり、意見交流にととても便利だと感じました。使いこなすのに時間がかかりそうですが、頑張ってみたいと思いました。」などの感想が聞かれ、各校の実践改善に反映できる有意義な研修となりました。

講座⑤の「人権教育」では、SOGI-Mamii's 代表 高橋 愛紀 氏より、性別不合を考えていくためには、今、自分たちが考えている以上に性には多様性がある、認識をもっと広く持たなければいけないことや、正しい対応を進めていくためには、正しい情報を得ることの重要性、そして、その具体について詳しく紹介していただくことができました。

参加者からは「保護者の方が話していただく講演は初めてでした。子どもを受け入れ、支えていくという面でのお話が大変に参考になりました。」「私たちが正しい知識を身に付け、一人一人の子ども達の違いを理解し、心の声に耳を傾け、受け止めることができるようにしていきたい。」などの感想が聞かれ、



夏期セミナー第五講座の様子

これからの実践に反映できる有意義な研修となりました。



夏期セミナー第六講座の様子

講座⑥の「いじめ・不登校生徒への対策」では、江別市教育委員会教育支援課 SSW 田村 千波 氏より、平成6年に制定されたいじめの定義が、改訂されながら解釈が広がってきていること。これからもその傾向はどんどん強まっていくため、それに合わせた対応も難しくなっていくこと。また、パネリストを紹介して頂きながら、いじめ・不登校児童生徒への対応について具体を示していただきました。

参加者からも「校内適応教室の設置について、初めて学ぶことができた。是非人員を増やして各校に設置できるように進めて欲しい。」「不登校児童に必要な支援は、その子が将来社会的に自立すること。学力をつけさせることに一生懸命になりすぎる必要はないんだ

と話を聞いて少し安心しました。」などの感想が聞かれ、現場での実践に直接反映できる有意義な研修となりました。

各講座の終了後に、講座内容に対するアンケートを実施しましたが、評価では（大変良かった、良かった、普通、あまり参考にならなかった、参考にならなかった：５段階評価）、「大変良かった」と「良かった」が全体の９割を超えるなど、高評価を得る研修となりました。また、講座の内容に関する希望では、「実技実習等、直接見る、触れることができる講座が良いです。」「多様性が求められる教育界なので、まだまだ昭和的な考え方が多い現状を変えていくため。新たな考えが学べる講座があるとよいと思います。」「理論研ばかりではなく、江別を学ぶような、フィールドワークも楽しいかと思います。」等の意見もいただくこともできました。これらの意見については、次年度の計画に反映させ江別市教職員夏期セミナーが益々充実させられるように進めていきたいと考えています。